

令和7年度

研修集録

湯沢高等学校

令和7年度 秋田県立湯沢高等学校【研修集録】

目 次	ページ
巻頭言	1
研究授業： 国語科	2
研究授業： 英語科	5
研究授業： 地理歴史科	12
研究授業： 理科	16
研究授業： 家庭科	18
高等学校初任者研修（英語科）	20
実践の指導力習得研修講座（情報科）	21
実践の指導力習得研修講座（保健体育科）	22

巻頭言

藤原 健

昨年度（令和6年度）は、授業改善の重点項目を「生徒の学習意欲（学びたいという気持ちと、目標達成のために粘り強く学ぶ姿勢）を向上させる授業づくり」と定め、全校で取り組みました。授業アンケートによる評価・検証では、概ね良好な結果が得られましたが、「授業に集中し、主体的・意欲的に取り組んでいる」という項目については、引き続き継続的な取組が必要であることが明らかになりました。

こうした成果と課題を踏まえ、今年度は授業改善に係る共通テーマを「生徒の問いを誘発する教師」としました。日常の授業において、教師は生徒に問いを投げかけ、考えることを促し、その回答を評価するという場面が多くあります。しかし、生徒自身の問いを引き出すためには、従来とは異なる授業展開や工夫が求められるのではないのでしょうか。これまでよりもさらに、生徒に委ねる時間を確保していくことなどが重要になってくると考えます。各教科における挑戦を、成功例だけでなく試行錯誤や課題も含めて共有できればと思います。

自ら問いを立てるようになった生徒は、その問いを解決しようと能動的に学びを深めていくはずですが、それは、本校の目指す生徒像である「自身のキャリア形成に積極的に取り組み、高校卒業後も様々な機会を通して主体的に学び続けられる生徒」に近づくことにつながるはずですが、本集録が、互いの実践を確認し、試し、改善していく契機となり、今後さらに不透明さや不安定さを増す社会を生き抜く生徒たちの、何かしらの足がかりづくりに寄与することを願っています。

第2学年 国語科（論理国語）指導案

日 時：令和7年12月15日 2校時
場 所：2年B組教室
対 象：2年B組 24名
授業者：池田 智仁
教科書：『論理国語』筑摩書房

1. 単元名

第6章 世界を視る位置 より 今福龍太『ファンタジー・ワールドの誕生』

2. 単元の目標

(1)「(1)言葉の特徴や使い方に関する事項」

評論文で使われる語を、脚注や辞書で調べ、意味や用例を理解できる。(知識及び技能)

(2)「C書くこと」

抽象的な表現について自身の経験と結びつけたり、情報を収集したりしながら理解できる。

(思考力,判断力,表現力等)

(3)抽象的な表現について自身の経験と結びつけ、他者と協働しながら理解しようとしている。

(学びに向かう力,人間性等)

3. 単元と生徒

(1)単元観

本単元は、観光における写真撮影と買い物という具体的な行為に着目することで、そこに隠された権力性を明らかにする文章である。ポスト・コロニアリズムの思想から権力の問題の存在に気付かせ、我々が無意識に権力へ加担しているという隠された事実を示唆している。

(2)生徒観

抽象的な論進行をとらえることに苦手意識を持つ生徒がいるものの、学習課題に前向きに取り組む姿勢や、グループ活動では積極的に意見を交わす様子が見られる。

(3)指導観

本文に表現される観光客の行動から読み取れることを基に、修学旅行を経験した生徒に、自身が経験した「写真撮影」を含めた行動の意味を深く評価させる。そのなかで、本文の抽象的な表現を自身の行動を含めた具体例で明らかにしようとする姿勢を身につけさせたい。

4. 研究課題との関わり

研究課題「生徒の問いを誘発する教師」の意識の仕方、ICT活用などの研究を深める

スライド発表を通して、自分の経験を交えて抽象的な表現を理解する姿勢を養う契機としたい。

5. 単元の指導計画（全6時）

(1)概要、主張、語彙の把握 …1時間

(2)第一段落の理解 …2時間（うち1時間目が本時）

(3)第二段落の理解、まとめ …3時間

6. 単元の評価規準

	(ア)知識及び技能	(イ)思考力,判断力,表現力等	(ウ)学びに向かう力,人間性等
評価の観点	評論文で使われる語を、脚注や辞書で調べ、意味や用例を理解できる。	抽象的な表現について自身の経験と結びつけたり、情報を収集したりしながら理解できる。	抽象的な表現について自身の経験と結びつけ、他者と協働しながら理解しようとしている。

7. 本時の学習 (本時 2/6 時)

(1) 本時の目標

- ・スライド作成をすることで、「脱文脈化」の具体を理解できる。(思考力, 判断力, 表現力等)
- ・他者と協働しながらスライド作成・発表をしようとしている。(学びに向かう力, 人間性等)

(2) 展開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価の観点・方法
導入 3分	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題を確認する 	<ul style="list-style-type: none"> ・「文脈」についての既習事項に触れながら提示する 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 本時の課題:「脱文脈化」について、自分たちの経験と照らしてスライドを作成し、発表する。 </div>			
展開 42分	<ul style="list-style-type: none"> ・班で分担し、「脱文脈化」について Google スライドを用いて発表の準備をする (班) ・スライド発表をする (全体) 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスルームに配信済みのリンク先の Google スライドで編集するよう指示する ・Google フォームの相互評価欄を見ながら聞くよう指示する 	(イ) 思考力, 判断力, 表現力等 …スライド, フォームの回答 (ウ) 学びに向かう力, 人間性等 …観察, スライド, フォームの回答
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返り ・今回の授業を通して学んだことを Google フォームに入力する ・Google スプレッドシートに転記、一覧課されたものを共有する 	<ul style="list-style-type: none"> ・他グループの解釈を参考に、自分の考えを深める契機とする 	

1. 授業を終えて

評論を読むためには抽象的な表現の理解が不可欠であり、それがそのまま生徒たちの課題であった。修学旅行が終了したタイミングで、自分たちで得た写真を具体例として文章に直接代入することで、新鮮な理解を促すことを意図して授業を設計した。しかし、「落差」や「権力性」という大きな概念の中での記述であるという前提を抑えきれなかった点が反省として残る。授業テーマである ICT 機器の取り扱いはある一定の使用例を示すことができたと思うが、あくまでも手段であることは心に留めておきたい。

2. 参観者から

- ・機を逃さないホットな題材選定だと思った。
- ・生徒も授業者も ICT 機器の活用に慣れていることが感じられた。
- ・スライド作成はロジカルシンキングを目的とするうえで有効であるため、研究の余地がある。
- ・本文全体の大筋から逸れないような工夫も必要であった。

ファンタジー・ワールドの誕生 ワークシート①

組 番 名前 ()

【課題】「脱文脈化」について、自分たちの経験と照らしてスライドを作成し、発表する。

本文p.152- 15

○写真のフレームによって切り取られたこの土地の風景や人々が、その時点で、周囲のいかなる社会的・文化的・政治的コンテクストからも切り離されてしまう。

○脱文脈化されたスナップ写真は、したがっていともたやすく撮影者である観光客自身の固有の「物語」の中に組み込まれてゆくための無色透明なアイテムへと変貌する

みなさんほどのような「脱文脈化」をしてみてください。

★スライド作成・相互評価の観点

- ①写真には、現地の風景や人々などが映っている。
- ②自分たち「固有の『物語』」（＝撮影秘話や解釈など）が語られている。
- ③被写体が本来持っている「文脈」が語られている。

発表メモ

英語科「英語コミュニケーションⅠ」学習指導案

実施日時：令和7年10月23日（木）4校時

対象：湯沢高等学校 普通科 1年D組（33名）

授業者：高橋 諒

教科書：BIG DIPPER English Communication I

（数研出版）

1 単元名 Lesson6 What Is Happiness?

2 単元の目標

日本と世界の幸福度や幸福観について説明された英文を図表と併せて理解し、理由を示して自分の考えを簡単に書いたり、話し合ったりできる。

3 単元と CAN-DO 形式での学習到達目標との関連

聞いたり読んだりして得た情報について、簡単なコメントや意見交換をすることができる。

【GRADE 1 SPEAKING（やり取り）】

身近な話題について、自分の考えなどを書いて伝えることができる。

【GRADE 1 WRITING】

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度			
・情報や考えを述べるために必要な語彙や表現等を理解している。 ・幸福度についての意見を理由とともに話したり、書いたりして伝える技能を身につけている。☑	・幸福度について、聞いたり読んだりしたことを基に、データや図表の情報を踏まえた意見を理由とともに話したり、書いたりして伝えている。			・相手の意見をよく聞いた上で、自身の意見を理由とともに伝え合おうとしている。			
知識・技能a	課題対応能力b	論理的思考c	対話力d	協働力e	自己管理能力f	前向きにやり遂げる力g	公共心h
湯高力							

5 単元観

本単元は日本と世界の幸福度に関する説明文をデータとともに読んだり聞いたりすることで、国ごとの異なる幸福観について理解を深めていく内容になっている。扱われている言語材料は過去完了、関係副詞（when・where）であり、関連する領域別項目は「SPEAKING（やり取り）」とする。教科書の内容を基に「What Is Happiness?」という答えの無い問いに対して生徒たちなりの答えを作成・共有することで身近な価値観の違いに触れ、相互理解の意識を醸成する機会としたい。

6 生徒観

定期的に教科書の学習単元に絡めた内容でディベートに必要な意見・反駁の作成とやり取りを行っているため、自身の考えを英語で書いたり、話したりする活動に慣れてきた生徒が増えてきた。しかし、ディベートにおける意見の立場を授業者が設定しているため、与えられた立場に即した意見を作成することが多くなっている。本単元の学習内容を基に、与えられた立場によらない解答に幅のある生徒自身の自由な意見交換を通して英語で主体的に意見を伝えることの楽しさを感じる機会としたい。

7 単元の指導計画と評価の計画（総時数：7時間）

時間	主な言語活動等（◎本時の内容）	知	思	態
1	Introduction 「What Is Happiness?」について初発の答えをペアやグループで共有する。 Part 1 日本の高校生の幸福度の推移について読み取る（内容理解/音読）	けて指導に生かすことは毎時行なう	し、ねらいに即して生徒の活動状況を見届	一斉に記録に残す評価は行わない。ただし、ねらいに即して生徒の活動状況を見届
2	Part 1 日本の高校生の幸福度の要因を調べて、伝える（表現活動/調べ学習）			
3	Part 2 日本と世界各国の幸福度の比較について読みとる（内容理解/音読）			
4	Part 2 幸福度の高い国の要因について調べ、発表する（表現活動/調べ学習）			
5	Part 3 ドミニカ共和国の幸福度が高い理由について読み取る（内容理解/音読）			
6	◎Interaction 「What Is Happiness?」に対する自身の考えを作成し、共有する。（表現活動）			
7	まとめ 本単元の学習内容を振り返る。（リテリング） クラスメイトと意見共有して感じたこと、気づいたことをまとめ、提出する。（表現活動）			

8 本時の学習（本時 6/7時間）

(1) 目標

「自分にとっての幸福」についての意見を理由とともに書き、伝え合うことが出来る。

(2) 本時の展開

過程	学習活動	教師の支援及び指導上の留意点	評価
導入 15分	○Warm-up リスニングを行い、空所を埋める。 ○データから生徒間での幸福観の違いを読み取る。	○リスニングの内容や書き取る箇所を展開部分での活動につながるように設定する。 ○事前のアンケート結果のデータを読み取り、身近でも幸福観が異なることを理解させる。	
展開 25分	○本時の学習課題を確認する <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">Write your idea of happiness and share it with your classmates</div> ○本時の活動の流れを確認する。 ○「どのようなとき」に幸福を感じたのかを理由とともに英語で表現する。 ○グループで意見交換後、クラス全体で共有する。	○特に関係副詞 when を用いるなどして、どのようなときに幸福を感じるのか説明できるように例文を示しながら活動する。 ○一人一人の幸福の違いに気づけるように、異なる意見を取り上げる。	湯高力 a, c, e
まとめ 10分	○他の生徒の意見とそれに関するコメントを書いたり、読んだりする。 ○次時の見通しを持つ。	○日本語によるコメントも可とし、相互理解を促す。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">【評価】 自身の幸福について理由とともに意見を書いたり、相手に伝えたりしようとしている。 【思考・判断・表現 / 主体的に学習に取り組む態度】</div>	湯高力 d

October 23rd, 2025

Lesson 6 What Is Happiness?

Class No Name

★Today's goal

★Warm-up

Please listen the statements and fill in the blanks with suitable words you heard

Part 1

The percentage of "very (1)" students rose from 24% to 42% between 1982 and (2).

There are some reasons. Recent students have less (3) at school and can (4) themselves to sports and music. Also, they can easily (5) with their friends through (6) media.

Part 2

A survey of 15-year-olds showed (1)'s life satisfaction was 6.80 out of 10 points.

The (2) of 48 countries was 7.37.

In Asia, some country (3) social emphasizes academic results scored low.

Northern Europe, known for advanced (4) (5), scored high.

The Dominican Republic ranked (6).

Part 3

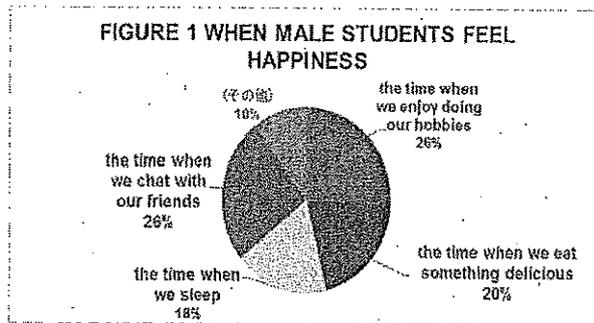
One of the Dominicans doctor said we know how to (1) (2).

In addition, they have good (3) and family who (4) about and help each other.

Juliet said that she will never forget (5) (6) (7) I found my best friends. That's why young people in the Dominican Republic feel so happy.

★Analyzing

Figure3



あなたは自分と同じ事に他人も幸福を感じると思いますか?
 99件のお答え



- そう思う
- ややそう思う
- あまりそう思わない
- そう思わない
- そういう人もいれば、そうでない人もいる

According to Figure ____ (and ____),

(You can write your idea in Japanese.)

★Writing

Q. What is your happiness?

Please write your idea with one reason at least.

< Hint >

「どのようなとき」に幸せを感じたか + その理由・原因

< Examples >

My happiness is the time when I chat with my friends because I can enjoy it and don't feel stress.

The moment when I fall asleep is my happiness because I don't have to need to think about anything.

Write here ↓

★Sharing your idea and writing comment

- Let's share your idea and write your comment for other classmates' idea on Figjam.

Lesson 6 What Is Happiness?

Class _____ No _____ Name _____

★Today's goal

★Warm-up

Please listen to the statements and fill in the blanks with suitable words you heard

Part 1

The percentage of "very (1)" students rose from 24% to 42% between 1982 and (2).

There are some reasons. Recent students have less (3) at school and can (4) themselves to sports and music. Also, they can easily (5) with their friends through (6) media.

Part 2

A survey of 15-year olds showed (1)'s life satisfaction was 6.80 out of 10 points.

The (2) of 48 countries was 7.37.

In Asia, some country (3) social emphasizes academic results scored low.

Northern Europe, known for advanced (4) (5), scored high.

The Dominican Republic ranked (6).

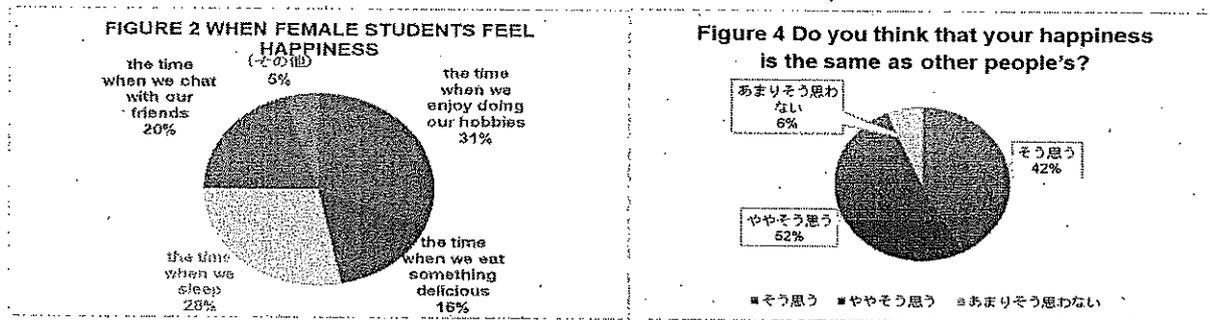
Part 3

One of the Dominicans doctor said we know how to (1) (2).

In addition, they have good (3) and family who (4) about and help each other.

Juliet said that she will never forget (5) (6) (7) I found my best friends. That's why young people in the Dominican Republic feel so happy.

★Analyzing



According to Figure ____ (and ____),

(You can write your idea in Japanese.)

★Writing

Q. What is your happiness?

Please write your idea with one reason at least.

< Hint >

「どのようなとき」に幸せを感じたか + その理由・原因

< Examples >

My happiness is the time when I chat with my friends because I can enjoy it and don't feel stress.

The moment when I fall asleep is my happiness because I don't have to need to think about anything.

Write here ↓

★Sharing your idea and writing comment

• Let's share your idea and write your comment for other classmates' idea on Figjam.

研究授業 振り返り

参加者：菅原英明（指導主事） 嶋田仁 高橋恵 佐々木花純 佐々木瑞穂

授業者：高橋諒

1. 授業者から

本学年は定期的に教科書の学習単元に絡めた内容でディベートに必要な意見・反駁の作成とやり取りを行っているため、自身の考えを英語で書いたり、話したりする活動に慣れてきた生徒が増えてきた。しかし、ディベートにおける意見の立場を授業者が設定しているため、与えられた立場に即した意見を作成することが多くなっている。本単元の学習内容を基に、与えられた立場によらない解答に幅のある生徒自身の自由な意見交換を通して英語で主体的に意見を伝えることの楽しさを感じる機会としたい。

今回の研究授業では、単元名の「What Is Happiness?」という問いの答えとなるように自身の主張とその理由の作成及び意見の交流を目標として設定し、行った。本単元は日本と世界の幸福度に関する説明文をデータとともに読んだり聞いたりすることで、国ごとの異なる幸福観について理解を深めていく内容になっている。教科書の内容を基に「What Is Happiness?」という答えの無い問いに対して生徒たちなりの答えを作成・共有することで身近な価値観の違いに触れ、相互理解の意識を醸成する機会としたいと考え、本時の活動を設定した。また、生徒の興味関心を引きつけて授業内容に取り組みさせるために事前に生徒に取ったアンケートをグラフ化し、自分事として活動に取り組むきっかけとした。実際に授業を行ってみて、やはり指導案作成時点での予想される展開とは異なった発言や反応があり、難しいと感じた。特にワークシートの活用やグラフの読み取りに関してはその次の主張作成に繋がるような意見がなかなか出ておらず、活動が停滞する原因となってしまった。

初任者研修として多くの先生方にご参加いただき、指導法や改善策をご教示いただいた。授業を受ける生徒が変わったり、扱う単元が変わったりすることで指導法も異なってくるだろうが、いただいたご指摘を基に自身の授業を都度振り返り、今後の授業改善に努めたい。

2. 指導助言者・参観者より

<良かった点>

- ・教師と生徒間の良好な関係性が、授業の雰囲気から感じられた。
- ・ICT 活用に際して、生徒の没入感や活動に向かう意識が一気に高まった。
- ・事前のアンケートによるデータ提示が授業開始から興味関心を引きつけていた。

<改善点>

- ・導入教材の狙いが不明確だった。
- ・活動の目的と評価の手段との整合性を欠く部分があった。
- ・教師の英語使用量が少なかった。

地理歴史科（地理総合）学習指導案

日 時：令和8年2月13日（金）5校時

場 所：図書室

対象クラス：普通・理数科1年D組

授 業 者：奈良 省吾

使用教科書：地理総合（二宮書店）

使用教科書：新詳高等地図（帝国書院）

1 単元名 第5章 生活圏の諸課題 1：日本の自然環境と防災
 （C 持続可能な地域づくりと私たち （1）自然環境と防災）

2 単元の目標

- ・生徒の生活圏で見られる自然災害を基に、地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応との関わりとともに、自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解する。
- ・様々な自然災害に対応したハザードマップや新旧地形図をはじめとする各種の地理情報について、その情報を収集し、読み取り、まとめる地理的スキルを身に付ける。
- ・地域性を踏まえた防災について、自然及び社会的条件との関わり、地域の共通点や差異、持続可能な地域づくりなどに着目して、「生活圏の地域性を踏まえた防災対策」などの主題を設定し、「自然災害に備えるために、私たちはどのような対策を取るべきか」などを、多面的・多角的に考察し、表現する。
- ・私たちのまちの防災対策について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとする態度を養う。

3 指導観

(1) 単元観

本単元は、既習の地形、気候、産業、人口などの知識・スキルを統合し、現実の生活圏における課題解決に応用する力を養うことを目指している。単元を通して、身近な地域の課題を地理的な見方・考え方で捉え、その発生要因や空間的分布、解決策について多面的・多角的に考察させたい。特に、課題が相互に関連しあっている点に着目し、持続可能な社会の実現という視点から、主体的な判断力や行動力を伸ばしたい。

(2) 教材観

生徒の身近な「生活圏」に焦点を当て、現代社会が抱える多様な課題を地理的視点から考察できる。自然災害、防災、資源・エネルギー問題、環境問題、少子高齢化、都市・農山村の変容といった、現代日本および世界が直面する具体的な諸課題を扱う。教科書では、多様な地図、統計資料、事例写真などを豊富に用い、生徒が現実の空間的事象を具体的に捉え、分析・考察できる構成となっている。これにより、課題の構造を多角的に理解し、持続可能な社会の形成に向けた主体的な学びを促すことを意図している。

(3) 生徒観

本クラスの生徒は、積極的な発言や前向きな意見交換が目立つなど、学習への意欲と粘り強い取り組み姿勢が見られる。一方で、地理的な統計や図表などの資料を正確に読み取るスキルや、学習内容の知識を定着させる点には今後の習得や定着を要する点が見られるため、資料を分かりやすく構造化したり、知識を定着させるための工夫を凝らしたりする必要がある。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 生徒の生活圏で見られる自然災害を基に、地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応との関わりとともに、自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解している。 様々な自然災害に対応したハザードマップや新旧地形図をはじめとする各種の地理情報について、その情報を収集し、読み取り、まとめる地理的技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域性を踏まえた防災について、自然及び社会的条件との関わり、地域の共通点や差異、持続可能な地域づくりなどに着目して、「生活圏の地域性を踏まえた防災対策」などの主題を基に、「自然災害に備えるために、私たちはどのような対策を取るべきか」などを、多面的・多角的に考察し、表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 私たちのまちの防災対策について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

5 指導と評価の計画（10時間）

本事例では、内容のまとまりである中項目「自然環境と防災」を、「世界と日本の自然災害」と「私たちのまちの防災対策」の二つの小単元に分け、その中項目全体の指導計画の概要とともに、小単元「私たちのまちの防災対策」の指導と評価の計画を次に示すこととする。

内容のまとまり	小単元	各次の内容と配当時間例
C(1) 自然環境と防災 (10時間)	①世界と日本の自然災害 (5時間)	導入 世界の自然環境と災害に関する見通し（2時間） 第一次 世界からみた日本の自然の特色に関する資料の読み取り（2時間） 第二次 世界と日本の自然災害リスクに関する振り返り（1時間）
	②私たちのまちの防災対策（本事例） (5時間)	第一次 生活圏での防災対策に関する見通し（2時間） 第二次 生活圏での自然災害に関する資料の読み取り（2時間） まとめ 防災対策に関する振り返り（1時間）

(○：評定に用いる評価、●：学習改善につなげる評価)

時間	ねらい・学習活動	評価の観点			評価規準 【評価方法】
		知	思	態	
第一次 (二時間)	【ねらい】これまでの学習を踏まえ、自然環境から予想される生活圏の自然災害について考察する。ハザードマップなどから必要な情報を読み取ったり、複数の地図を重ね合わせて関連付けたりする技能を身に付ける。 【学習課題】私たちのまちで、ハザードマップが示す「危険性の高い地域」は、なぜそのように評価されているのだろうか？				
	【生活圏での防災対策に関する見通し】 ・生活圏のハザードマップから、想定される自然災害とその危険度の高い地域を読み取り、危険度の想定理由について仮説を立てる。	●		●	●生活圏のハザードマップから、想定される自然災害とその危険度の高い地域を読み取っている。 ●これまでの学習で身に付けた知識を関連付け、多面的・多角的に考察し仮説を設定している。

<p>第一次 (二時間)</p>	<p>【生活圏での自然災害に関する資料の読み取り】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットでの資料調査や図書館などでの文献調査などを基に、ハザードマップや新旧地形図、治水地形分類図、文献資料などの資料を収集し、それらの資料を基に仮説を検証する。 ・各自の検証をワークシートにまとめ、それを基にグループで発表し合う。 	<p>○</p>	<p>●</p>		<p>○ハザードマップや新旧地形図、治水地形分類図などの読図や、文献資料の読み取りから、仮説の検証に必要な情報を収集し、適切にまとめている。</p> <p>●検証の結果について根拠を示して適切に説明している。</p>
<p>第二次 (二時間)</p>	<p>【ねらい】地域の防災の在り方について話し合う活動を通して、生活圏で想定される自然災害についての認識を深め、防災意識を高めたり、防災を考えるために必要な技能を身に付けたりするとともに、自分たちの生活と自然環境との関わりについて考察する。</p> <p>【学習課題】私たちの生活圏において、自然及び社会条件を踏まえ、災害に強い持続可能な地域づくりを実現するために、どのような防災対策や行動を優先して構想すべきだろうか？</p>				
	<p>【生活圏での自然災害に対する避難計画の作成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数の地図から読み取ったことを関連付け、地形と予想される自然災害の危険度との関係についてまとめるとともに、それぞれの地域の防災上の課題について考察したことをまとめる。 	<p>○</p>	<p>●</p>		<p>○危険度や地形などに関する必要な情報を複数の地図から読み取り、地形と自然災害の危険度との関係について適切にまとめている。</p> <p>●GISを通して防災や避難に関する情報を収集し、適切に地図などにまとめている。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・GISを通して避難場所の位置や道路網などといった防災や避難に関わる情報を収集し、防災上のリスクを分析する。 ・グループで議論したことを基に、生活圏の地域性を踏まえた防災や緊急時の行動などについて考察し、まとめる。 	<p>○</p>	<p>●</p>		<p>●GISを通して避難場所の位置や道路網などといった防災や避難に関わる情報を収集し、適切にまとめている。</p> <p>○生活圏の自然的条件及び社会的条件との関わり、持続可能な地域づくりなどに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。</p>
<p>単元のまとめ (一時間)</p>	<p>【ねらい】学習を振り返り、生活圏で想定される自然災害に対する緊急の場合の適切な行動や日常生活の中での防災について具体的に考えることを通して防災意識を高める。</p> <p>【防災対策に関する振り返り】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハザードマップを基に、想定される自然災害の種類や規模などを読み取り、どのような備えが必要か考察する。 ・これまでの学習を振り返り、生活圏で想定される自然災害に対して必要な備えや防災上の課題について考察したことをまとめる。 	<p>○</p>	<p>○</p>		<p>○ハザードマップから、想定される自然災害の種類や規模、防災や避難に関わる情報などを適切に読み取っている。</p> <p>○生活圏の防災対策についての関心を高め、学んだことを実生活に適用しようとしたり、これからの学習に意欲的に取り組もうとしたりしている。</p>

6 本時の目標

G I Sを活用して、生活圏の自然災害と防災に関する地域の課題や特徴を整理し、自分事として考えをまとめることができる。

7 本時の展開

	学習内容	指導上の留意点	評価方法
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の内容を復習する。 ・本校の避難場所指定状況の把握と、周辺の指定緊急避難場所を調査する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「湯沢市防災マップ」を活用して、指定緊急避難場所を読み取らせる。 	
展開① 20分	<p>発問① そもそも、「私たち」は避難場所まで安全に避難できるのだろうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数の資料やツールを用いた分担調査によって、避難上のリスクをペア（チーム）ごとに整理する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>(予想される反応) 「学校周辺の老年人口率が高く、多くの避難者が避難場所に集まる」 「雪の影響で道が狭い上、交通量の多い道路を渡らなければならない」</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアを結合し、情報の共有と避難上のリスクをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 【会議室チーム】 ・統計情報の重ね合わせによる人口動態・地域属性に基づいた定量的リスクを分析させる。 【現場チーム】 ・Google Earth等を活用して、避難経路における空間的・物理的なリスクをシミュレーションさせる。 ・複数の視点を統合し、避難上のリスクを構造化させるとともに、自分事として考えをまとめ、発表させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プリント、発表
展開② 15分	<p>発問② ハザードマップは「命を守る（安全に避難する）」ためのものではないのか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害種別に応じた避難場所の適否を再定義し、地理的要因に基づきその根拠を分析する。 ・自宅等周辺の災害リスクを分析し、防災のための施策を検討する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>(予想される反応) 「かつては河川が流れていたのに、浸水の恐れがありそう」 「台地上に位置しているものの、指定避難場所までは遠い」</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・減災のためのハード対策について、身近な事例と関連付けて考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハザードマップに依拠しすぎることなく、地理院地図による分析を通じ、災害リスクの地形的要因を認識させる。 ・学校管理下とは異なる自宅周辺のリスクを再認識させ、自宅周辺等の避難状況に即して、防災のための施策を検討させる。 ・グループを組み、検討を要する事例を取り上げ、共に考察させる。 ・「湯沢市防災マップ（稲庭地区）」を他と比較し、災害リスクの違いに気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察、発表
まとめ 10分	<ul style="list-style-type: none"> ・気候変動による降雨量の変化や確率的地震動予測地図を確認する。 ・本時の内容について、自己評価を踏まえ、自分の考えの変容をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・諸資料から今後の日常生活において、実際に自分が被害に遭う可能性があることを、将来の備えとして役立たせる。 ・地理的条件と関連付けて、自分の考えをまとめさせる。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>生活圏の自然的条件及び社会的条件との関わり、持続可能な地域づくりなどに着目して、多面的・多角的に考察し、表現できたか。 (思・判・表)</p> </div>

高等学校 理科 (化学基礎) 学習指導案

実施日時 令和7年2月6日(金) 1校時
 場所 1年D組教室
 対象 1年D組32名
 教科書 化学基礎 academia (実教出版)
 授業者 仲山 抄子

1 単元名 3章 物質の変化 3節 酸化還元反応

2 単元の目標

酸化と還元が電子の授受によることを理解するとともに、それらの観察・実験などに関する技能を身につけることができる。

【知識・技能】

酸化還元反応とその利用について、観察・実験を通して探究し、物質の変化における規則性や関係性を見いだして表現することができる。

【思考力・判断力・表現力】

酸化還元反応と日常生活や社会とのかかわりについて興味・関心を持ち、自ら持つ疑問を他者と協働しながら解決しようとするすることができる。

【主体的に学習に取り組む態度】

3 単元と生徒

生徒は、基本的な技能を身につけ、計算等の練習には熱心に取り組むことができる一方で、定義や原理の理解には時間を要し、応用問題に対しては消極的になる傾向が見られる。また、分からないところを質問したり、互いに教え合ったりするなどの協働的な学習については、積極的に取り組める生徒とそうでない生徒との差が大きい。

酸化還元は、酸素・水素の授受という定義から電子の授受という定義へと拡張されており、生徒にとって理解が難しい内容である。しかし、理解の補助として酸化数を適切に用いることができれば、酸化還元を正確に判断することが可能となる。

そこで、生徒の勤勉さを生かして基本的な技能の定着を図るとともに、個人では理解が困難な内容については、他者との話し合いや教え合いを通して理解を深めることができるようにしていきたい。

4 単元の指導計画 (総時数 1.1 時間)

(1) 酸化と還元	2 時間 (本時 2 / 2)
(2) 酸化剤と還元剤	5 時間
(3) 酸化還元反応の起こりやすさ	2 時間
(4) 身のまわりの酸化還元反応	2 時間

5 単元の評価規準

【A】知識・技能	【B】思考・判断・表現	【C】主体的に学習に取り組む態度
酸化還元反応の定義について、電子の授受によるものであることや、酸化と還元が常に同時に起こることを理解する。また、酸化数の概念を捉え、酸化数の増減によって酸化還元反応を説明することができる。	酸化剤と還元剤のはたらきを示す電子を含むイオン反応式や、酸化還元反応のイオン反応式(化学反応式)を表現することができる。また、反応式に基づく量的関係を用いて濃度未知の酸化剤(還元剤)の濃度を求め、その考え方をグループで話し合いながら生徒間で共有することができる。	人間生活の中で利用されている酸化剤・還元剤について興味・関心をもち、積極的に図説を読み取ったり、観察や実験を通して探究したりする。また、グループで協働しながら自分の考えを広げたり深めたりし、学習した内容と関連付けて捉えようとする。

6 本時の指導計画

(1)ねらい

酸化数を決める規則から酸化数を求めることができ、酸化数の変化から酸化された物質と還元された物質を判断することができる。

(2)学習過程

	学習活動	指導上の留意点	評価の観点
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標、流れを確認する。 		
	本時の目標：酸化数の求め方や酸化数の増減による酸化・還元反応の判断の仕方を理解し、化学反応式を見て物質が酸化されたか還元されたか判断できる。		
展開 40分	<ul style="list-style-type: none"> ぱっと見ただけでは酸化還元を判断しにくい反応があることを確認する。 酸化還元反応についてのイメージについて各自プリントで確認する。 		
	<ul style="list-style-type: none"> 酸化数の求め方を確認する。 酸化還元を酸化数の増減から理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業プリントで問題演習を通して確認させる。 酸化数を求める順序を意識させる。 一人でやりたい人はそのままでもよい。グループでやりたい人は自由に席を移動してよい。 質問は生徒、先生どちらにしてもよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 協働し、試行錯誤しながら問題演習に取り組んでいる【A】(観察、プリント)
整理 5分	<ul style="list-style-type: none"> 振り返りテストで興味に付けられたことを確認する。 		<ul style="list-style-type: none"> 振り返りテストで自分の習熟度を確認する。【A】(プリント)
	<ul style="list-style-type: none"> 酸化還元のイメージについて授業の始まりと終わりでどのようにイメージが変わったか確認する。 		<ul style="list-style-type: none"> 自分の考え方がどのように変わったのか確認する【B】(プリント)

「家庭基礎」学習指導案

授業者：村田暁子

対象生徒：1年B～E組

日時：11/18(火) 3校時1C、11/19(水) 2校時1E、4校時1D、6校時1B

場所：1B～1E各教室

教科書：東京書籍「家庭基礎～自立・共生・創造」

1 単元名 第9章 経済生活を営む 1) 情報の収集・比較と意思決定

2 目標 消費行動における意思決定や契約の重要性、消費者保護の仕組みについて理解するとともに、生活情報を活用し適切な意思決定に基づいて行動できるようにする。

3 生徒と単元 学習で設定した生活課題に関して、自分の生活体験から積極的に意見や考えを述べ合うこともあり、家庭科に対する興味・関心が感じられる生徒達である。ただ、消費生活に関して、生徒達は消費や犯罪に関わる情報を見聞きする機会が多いが、漠然と自分は犯罪やトラブルに巻き込まれる可能性は低いと考えている生徒が多い。今回は SNS を通じて犯罪に巻き込まれるという事例を追体験できる体験型プログラム「レイの失踪」を用い、冷静に状況を判断し、行動する力を身につけさせたいと考えている。

4 単元の評価規準

(1) 知識・技能・・・家計と経済社会との関わり、生涯を見通した経済計画の重要性、消費行動における意思決定の重要性を理解している。

(2) 思考・判断・表現・・・モノ・サービスの選択に際し、様々な生活情報を収集・整理することができる。消費行動における主体的な意思決定について考え、まとめたり発表したりしている。

(3) 主体的に学習に取り組む態度・・・一消費者として自立した消費行動をとるために、モノ・サービスの購入の在り方や、消費行動について主体的に考えようとしている。

4 指導と評価の計画(6時間)

	学習内容(時数)	評価規準		
		A 知識・技能	B 思考・判断	C 主体的学習・取り組む態度
1	情報の収集・比較と意思決定(1) 《本時》1/6時間目		SNSを通じた情報発信や個人情報管理についての留意点を確認しまとめている。	発信される情報を、主体的に読み解き、批判的に分析しようとしている
2	購入・支払いのルールと方法(1)	契約・支払時の留意点及び多様な販売方法とトラブルを防ぐための留意点について、理解している。		契約の重要性・支払時の留意点について理解している。
3	消費者の権利と責任(2)		消費者問題の被害の防止や救済について具体的な事例を通して考え、まとめたり発表したりしている。	消費者の権利や責任、支援の制度に関心をもっている。
4	生涯の経済生活を見通す(2)	生涯を見通した経済計画や消費行動における意思決定の重要性を理解している。	家庭の経済生活の諸課題についての具体的な事例を収集・整理することができる。	

5 本時の計画

(1) 本時の目標

日常生活において、情報の収集・発信や個人情報を管理する際の留意点をあげることができる

(2) 学習活動と評価

	学習活動	指導上の留意事項	評価基準
導入 5分	①本時の学習内容と目標を確認する	<ul style="list-style-type: none"> ・ SNS を利用したトラブルや犯罪に巻き込まれないために気をつけることは何か問いかける <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 本時の目標：日常生活において、情報の収集・発信や個人情報を管理する際の留意点をあげることができる </div>	
展開 40分	②体験型プログラム 「レイの失踪」の冒頭動画を見て、闇バイトに巻き込まれていく登場人物達のストーリーを追体験し、この後やるべきことを確認する 【ゲームパート】 ③SNS・情報発信の危険性を探る ●ゲーム内でレイのスマートフォン画面から、失踪に関わる痕跡を探し、誰とどんなやりとりをしていたのか探る。 ●情報を探り、犯人と思われる人物に迫ったら、画面上から相談センターに通報する。 ④【レクシパート】 SNS・情報発信の危険性を動画教材を用いて確認する。 ●SNS を通じた情報発信や個人情報の管理について留意点を確認し、ワークシートにまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループ内で話し合いをしながら活動を進めるよう伝える。 ・ 机間巡視をしながら、進展のないグループには、次の段階へ進むためのヒントを与える。 ・ レイのとった行動や発信される情報の中で危険だと考えられるものを探しながら活動を進めるよう指示する。 ・ 犯罪やトラブルから身を守るための情報発信や個人情報取り扱い方について、ワークシートにメモを取りながら見るように伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発信される情報を、主体的に読み解き、批判的に分析しようとしている【C：関心・意欲・態度】 ・ SNS を通じた情報発信や個人情報の管理についての留意点を確認しまとめている。【B：思考・判断・表現】
まとめ 5分	⑤本時の授業を通じて感じたことや、学んだことをまとめ、アンケートに回答する	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報発信や個人情報の取り扱いについては、インターネット上だけでなく、あらゆる場面で注意が必要であることも指導する 	

初任者研修を終えて

英語科 高橋 諒

1 はじめに

湯沢高校に赴任して、まもなく1年が経過する。この1年間は、1学年の副担任として学級経営や教科指導、男子ハンドボール部での部活動指導など多くの経験を積み上げることができた。また学校内外の研修を経て、今後の教員人生の基盤となる知識を身につけることが出来た。これら1年の研修とその学びを総括したい。

2 校内研修

一般研修では、本校の重点目標や様々な校務分掌、学校・学級経営などについて理解を深めることができた。特に校務分掌や校内規則については今年度新規で採用・赴任であったため、毎回の研修が新鮮かつ貴重な経験となり、本校について多くのことを知ることができた。全ての研修を通じて実感したことは、教職員が共通認識をもち、情報を共有することが大切であるということだ。どんなときも、学校組織の一員としての自覚をもって、校務に当たっていききたい。

教科研修では、普段の授業内容についてだけでなく、本校独自の「湯高力」をはかる評価方法・規準や考査作成の基礎、教材研究の観点など多岐にわたってご指導いただいた。特に、授業実践研修では、指導案の作成から授業後の検討会に至るまで多くのご助言をいただき、自身の教科指導の幅を広げることが出来た。しかし、ICT・AIの活用や授業内活動の精査については確立できていない部分が多くあるため、引き続き研修を続けていきたい。

3 校外研修

総合教育センターでの研修は、教育課程や進路指導、生徒指導などの講義を聞き、あらゆる分野の内容について理解を深めることができた。学校教育は生徒の多様化・教育的ニーズの複雑化とともに変容するものであるため、教員として絶えず学び続けることが大切であると感じた。また、特別支援学校訪問やAP研修では、普段は味わうことのない経験をさせて頂き、教員としての資質・能力を高めることができた。

4 まとめ

この1年、指導教員の佐々木花純先生、指導主事の菅原英明先生をはじめ、校内外の多くの先生方にご指導を頂いたおかげで、多くのことを経験し、教員としての第一歩を踏み出すことができた。初任者研修に携わって下さった方々に心から感謝したい。そして初任者研修で学んだことを来年度に生かしていきたい。

実践的指導力習得研修（2年目）を終えて

保健体育科 河村 祐太郎

1 校内研修

(1) 授業研修

教材研究や学習指導案の作成、研究授業、授業研究会などの研修を通して、ICTの活用や授業実践の具体的な手立てなどについて深く考え、多くの新しい知見を得ることができた。

(2) 一般研修

今年度は、2学年の学級担任になり、HR経営や成績処理などのマネジメント能力の研修を十分に行えた。特にHR経営では、進路指導、生徒指導、学級経営など多くの先生方のアドバイスを受けながら、経験と知識を積み上げることができた。

2 校外研修

(1) 実践的指導力習得研修講座（高等学校2年目）Ⅰ 令和7年5月26日（月）

① 10:00～10:10 <開講行事・オリエンテーション>

② 10:10～11:40 <講義・演習> 保護者対応と連携

保護者への学級通信や電話などによる情報提供や説明の大切や必要性について、理解が深まった。保護者の苦情・要求に対しては、ワンダウンポジションで4つのステップを意識するとともに、保護者と適切な連携をとるための、人間関係の構築に努めていきたい。

③ 12:40～13:55 <講義・演習> 学校組織の一員として

あきたキャリアアップシートや自校の学校教育目標を読み込み、学校の教育方針を踏まえて、自分のクラスの目標や経営方針について、振り返った。また、クラスの分析の演習を行い、生徒同士のコミュニケーションを促進することや問題行動の未然防止の手立てについても考えることができた。

④ 14:10～16:15 <講義・演習> 授業づくりの充実に向けて①

昨年の研究授業の内容を振り返り、自己の課題を分析したり、研修者同士で意見交換をしたりすることができ、有意義であった。知識を確保しながらも、個別最適な学びが、今後一層求められていくことを踏まえ、今年度の授業実践に向けて、教材研究を進めていきたい。

(2) 実践的指導力習得研修講座（高等学校2年目）Ⅱ 令和7年9月19日（金）

① 10:00～10:10 <開講行事・オリエンテーション>

② 10:10～16:05 <演習・協議> 授業づくりの充実に向けて②

今年度実践した研究授業の映像を視聴し、課題の分析や指導改善を行った。保健の中学校で既に学習している単元については、知識の習得だけでなく、自己の生活を振り返り、実生活の改善につなげたり、社会全体の課題に目を向けたりすることが大切である。また、「個別最適な学び」と「協働的な学び」については、単体として考えるのではなく、それらを往還的に繰り返すことで生徒の学びを深めていくことに留意していきたい。

3 まとめ

この1年は、保健体育科の先生方、学年部の先生方に多くのご指導を頂いた。学級担任として、初めての経験も多くあったが、先生方のアドバイスで軌道修正しながら、乗り越えることができた。また昨年同様、湯沢高校の生徒の謙虚な姿勢や目標に向かって邁進する姿にかなり触発された。自らもこの1年は、生徒とともに様々なことチャレンジできたと感じる。今後も学び続ける意識をもち、周りから様々なことを吸収しながら、研究と修養を継続していきたい。1年間本当にありがとうございました。

実践的指導力習得研修（2年目）を終えて

情報科 武田紘

1 校内研修

(1) 授業研修

教科指導に関する様々な研修を通して、年間指導計画の検討や教材研究の必要性について再認識することができた。また、研究授業においても「ICTを活用した生徒の主体性を育む活動」を意識して計画・実施することができた。今後も、生徒を取り巻く社会の変化や生徒自身の姿に合わせた教科指導を行えるように見識を深めたい。

(2) 一般研修

今年度は、高校3学年の担任となったことで、進路実現に向けたHR経営や進路指導に関する研修を活かす場面が多々あった。その中で、1・2学年において、HR経営や進路指導、生徒指導など、「生徒自身に将来のキャリア形成を意識させる場面」を効果的に設定することの大切さを認識することができた。

2 校外研修

(1) 実践的指導力習得研修講座（高等学校2年目）Ⅰ 令和7年5月26日（月）

① 10:00～10:10 <開講行事・オリエンテーション>

② 10:10～11:40 <講義・演習> 保護者対応と連携

保護者との連携の仕方や情報提供の仕方について理解を深めることができた。保護者の考え方や意見について容的な態度で接すること、その上で伝えるべきことは伝えるという毅然とした態度が保護者対応では大切であると感じた。今後は、より丁寧に保護者の意見や思いを受け止め、適切な関係構築に努めていきたい。

③ 12:40～13:55 <講義・演習> 学校組織の一員として

学校教育目標の正しい理解と、その目標を踏まえたHR経営を行うことが大切であると再認識した。研修では互いのクラスの状況について分析し合うことで、今まで気付くことができなかったクラスの長所を見つけることができた。自校が掲げる教育目標と生徒の姿を照らし合わせ、適切なHR経営ができるよう努めていきたい。

④ 14:10～16:15 <講義・演習> 授業づくりの充実に向けて①

教材研究の進め方や単元の捉え方について、指導主事よりご教示いただいた。情報科としてICTや情報機器を活用した授業の構想を意識すると同時に、単元の目標を正しく理解し、ICTや情報機器の活用が目的にならないよう授業を行うことの大切さを認識できた。

(2) 実践的指導力習得研修講座（高等学校2年目）Ⅱ 令和7年9月19日（金）

① 10:00～10:10 <開講行事・オリエンテーション>

② 10:10～16:05 <演習・協議> 授業づくりの充実に向けて②

他教科の先生方と互いの授業動画を視聴し合いながら、研究授業の成果、課題、改善の手立てについて協議した。他の先生方の授業を見る中で、「各教科の見方・考え方」を意識することが大切だと感じた。授業において、生活との関わりや生徒の興味関心に寄り添った説明の仕方や資料の提示を行えるようにしていきたい。

3 まとめ

今年度も、他校を含めた情報科の先生方、学年部の先生方に多くのご指導を頂きながら、各研修や校務分掌に励むことができた。また3学年の担任として責任ある業務を多く経験できたことは確実に今後のプラスになると感じている。この1年で強く感じたことは、「指導の計画性」と「自身の意識改革」の重要性だ。3年生が高校生活の集大成として進路活動に取り組む際、1・2年生での経験の濃さが大切だと思う。生徒が自信の進路実現を達成するために必要な経験を、計画的に提示できる学級経営や関わり方が担任には求められると感じた。また、そのためには自身の意識改革も必要だと思う。日々の生活の中で生徒のキャリア形成に必要な情報をつかむアンテナの高さ、それを伝えるための毅然とした態度、どれをとってもまだまだだと感じている。今後も生徒とともに学び続ける姿勢を大切にしながら、研修と修養に努めていきたい。今年度も1年間ありがとうございました。22。